

2019.07.18
ひょうごこころの医療センター
市民セミナー

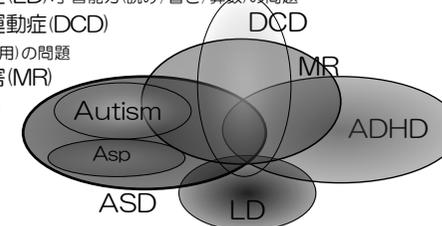
～才能としての～ おとなの発達障害

田中 究

 兵庫県立ひょうごこころの医療センター
Hyogo prefecture - Hyogo Mental Health Center

発達障害ってなに

- 概ね、次のものの総称
 - ～フツーに、カシコソーに見えるのに、ナンカヘン
 - 自閉スペクトラム症 (ASD):社会性(人付き合い)の問題
(広汎性発達障害・アスペルガー症候群)
 - 注意欠如多動症(ADHD):行動上(多動/衝動性/不注意)の問題
 - 特異的学習症(LD):学習能力(読み/書き/算数)の問題
 - 発達性協調運動症(DCD)
:運動上(不器用)の問題
 - 軽度知的障害(MR)
:全般的認知の問題



思春期以降に問題となる発達障害

- 自閉スペクトラム症(ASD) (広汎性発達障害 (PDD))
 - ・他人との意思や情緒の疎通などのコミュニケーションの苦手
 - ・集団の中で適切に振舞えない、常識がないとみられるなど社会性の困難
 - ・こだわりが強く柔軟な対応が難しい
- 注意欠陥/多動性症 (AD/HD)
 - ・注意力に困難があり、多動や衝動的な行動をコントロールするのが苦手
- 学習障害 (LD)
 - ・知能や他の能力に問題がないのに、「読み」「書き」「計算」の1つ、あるいは複数が苦手
- 知的障害 (MR)
 - ・全般的な知的機能の不足。軽度や境界域では不応が生じるまで分からないことがしばしばある。

発達障害をもつ人の特徴

- 相談機関・(精神科)医療機関をしばしば訪れる

対人関係に問題、人との葛藤的關係やトラブル、いじめなどにさらされやすい。(その結果)腹痛や頭痛・食欲不振・吐き気・めまい等の身体症状、不眠・抑うつ・不安・こだわり・パニック症状等に悩み、相談機関や精神科に通うことも多い。
- 長期欠勤(席)、休職(学)、退職(学)

このような困難が重なり、支援を受ける前に休みがちになり、自宅・自室に引きこもってしまったり、休職(学)あるいは退職(学)してしまうことも多い。休職(学)や退職(学)の支援にも発達障害を想定する必要がある。

発達障害を疑うのは？

- 子どもの場合（親/保健師/保育士/教師/小児科医/児童精神科医）
 - 多動・落ち着きがない
 - 癩癪がひどい
 - 指示に従わない
 - 勉強ができない(理解力がない)
 - …

発達障害を疑うのは？

- 高校生・大学生の場合
 - 変わっている
 - 態度・興味関心
 - 知的障害のようだけどそうでもない
 - 成績が悪い/よい
 - 友達がいない
 - 周りから浮いている
 - 交われない
 - 感情の波が激しい
 - きれやすい
 - 就活がうまくいかない
 - …

発達障害を疑うのは？

- おとなの場合
 - 変わっている
 - 仕事できない
 - 知的障害のようだけどそうでもない
 - 片付けられない
 - 感情の波が激しい
 - きれやすい
 - …

精神科受診時の主訴は

- しんどい
- うつ
- 人とつきあえない
- 集中力がない
- 興味が湧かない
- 落ち着かない
- 眠れない・起きれない
- 仕事が続かない
- 落ち着きがない
- ひとり言
- こだわり
- 感情的（キレル）
- 暴言・暴力
- 自殺念慮・企図
- 被害妄想・妄想的
- 発達障害？

発達障害の概念がなかった頃

- うつ病
- 躁うつ病
- 統合失調症
- 強迫神経症
- 境界型パーソナリティ障害
- 知的障害
- 適応障害
- …
- 気にしすぎ
- 気のせい
- 普通

神経発達症群(DSM-5)とよびようになっている (発達障害)

- 発達期に始まる神経発達のパリ、経過、高頻度にみられる併存症、認知-情動処理特性、脳病態、発症リスク(ゲノム、環境、気質)、男性優位な有病率など、共通点が多い障害群

知的能力障害群(MR)
コミュニケーション症群
 吃音、社会的コミュニケーション症
自閉スペクトラム症(ASD)
注意欠如・多動症(ADHD)
限局性学習症(LD)
運動症群
 チック症など
他の神経発達症群

発達障害

- もともとは大きな概念
- 発達障害支援法による=法律用語
- ASD,ADHD,LDなどの発達障害…それぞれ異なる概念で、異なる支援が必要だけど、重なることが多い
- アメリカの精神科の診断基準DSM-IVがDSM-5(2013)にかわったとき、広汎性発達障害が自閉スペクトラム症という名前にまとめられた。アスペルガー障害という用語はこれから使われなくなっていく。

発生率

ASD	1.47% (2014, 米国) 学童期 2% 1.11~1.43% (英国) 半数以上が知的障害を伴う
ADHD	5%? (3~17%)
LD	10%?

- 人口全体の1~2割に発達障害? その8割が高機能。
- しかし、増えているという根拠も、増えていないという根拠もない。

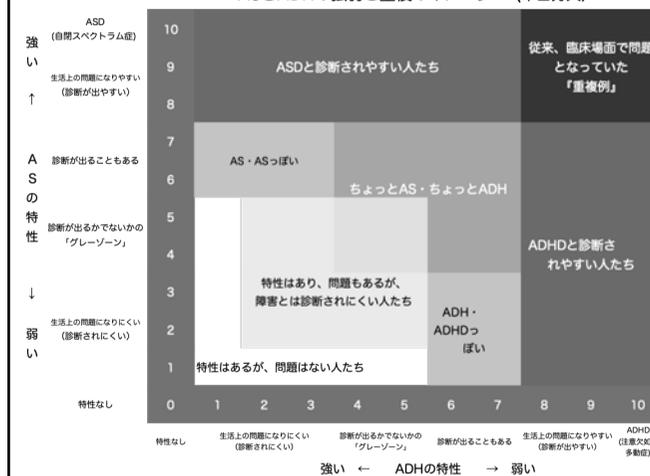
重なることが多い

卵が先か鶏が先か 一次症状と二次症状

- 社会性の障害、学習の障害はいずれの発達障害にも存在する

	一次症状	二次症状
ASD	社会性・対人関係	多動・学習障害
ADHD	多動・衝動性	学習障害・社会性
LD	学習障害（多動）	社会性

ASとADHの強弱と重複のイメージ (本田秀夫)



Multi-Dimensional Scale for Pervasive Developmental Disorder & Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder (MSPA), 船曳 康子

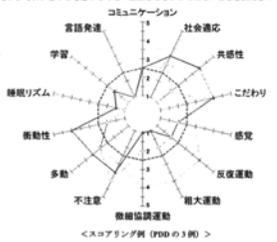
3.5. フィードバック

14項目、9段階評定後にレーダーチャートに記入する(図1)。この結果化により、臨床・行動特性を一目で把握できる。各項目は、関連したものが重複するように配置されている。たとえば、PDDの特性は右上、運動関連は右下、ADHDが左下、その他は左上となっている。最終的な記入用紙には、得意分野や発達指数もしくは知能指数の記載部分がある。発達障害者は、上述のような困難さとともに、特技や特に得意な分野も持ち合わせる人が多い。これを機能的に見出し、軸として生かしていくことで身体的に過ごしやすいと考えるために、得意分野およびその後の関わりを最後に扱い、用紙に記載するように作成している。また、年齢があるにつれ、機能的な思考や適応行動をとらうとする際に、発達障害の行動特性としての困難さをカバーする形で、知能指数が関係している重要な要素であると考え、記載するようにしている。

上記を用いて、チャートの説明や教育を含む相談を行うことが一般的である。レーダーチャートの評定の理由説明も追加することもある。更に、問題解決への方法や、現状を改善するのに有効なサポートや工夫についても教育を行うのにも役立つ。

なお、各項目において、高い数値は困難さを抱えていることを意味するものであるが、それが必ずしも悪くはない結果となるわけではないことを伝えるのも大切なことである。高い数値は、実際上、必ずしも問題となるとは限らない生得的な特性を示している。という説明も加えておく。たとえば、有名な画家や学者も、すばらしい功績を残しながらも、ある項目で高い数値を示す。それゆえ、高い数値は、覆れていると受け取っているとかいような否定的な判断をするものではない。要するに、特性を明らかにして、生活の質を向上させるものである。

次の4章では、実際に14項目、および得意分野を評定するMSPAのスコアリングシートを示す。



* 特性チャート *

年 月 日

1	2	3	4	5
気になる点はない	多少気になる点はあるが、通常の生活や学校生活に支障を及ぼさない程度	本人の工夫や、周囲の配慮により、生活に支障を及ぼさない程度	大抵の配慮や周囲の支援が必要で、生活に支障を及ぼす程度	無意識的に繰り返される同じ行動(衝動)

得意分野、特技とその程度

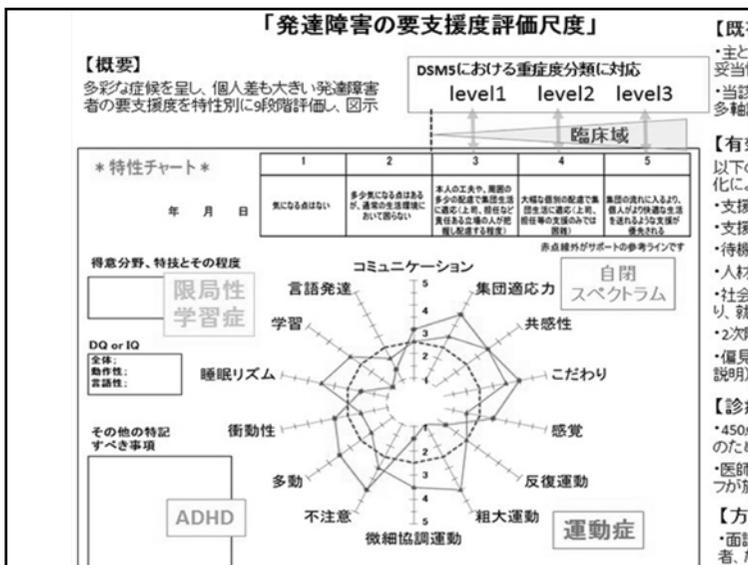
DQ or IQ

全体:
 動作性:
 言語性:

その他の特記事項



Kyoto University
 厚生労働省研究事業



【既
 ・主と
 要当
 当診
 多軸
 【有
 以下
 化に
 ・支
 ・支
 ・待
 ・人材
 ・社会
 り、就
 ・2次
 ・偏見
 説明
 【診
 ・450
 のた
 ・医師
 つか
 【方
 ・面
 者、7

基本的なこと

発達障害は

- 人生の早期、乳幼児期からあらわれる。
 - 後年、出現する発達障害はない
 - 早期にはその特徴が顕著ではない場合がある
 - しかし、よく観察すればみえてくる。
- 対人関係、環境（育ち）によって臨床像が変化する
 - 成人期はこれらの影響を受けて、臨床像・パーソナリティはさまざまに変化している。
- それぞれに「こころ」（＝心理状態／認知スタイルなど）があり、支援の形は異なる。

おさらい、発達障害とは

発達障がいとは、中枢神経系の障害のため、生まれつき認知やコミュニケーション、社会性、学習、注意力等の能力に偏りや問題を生じ、現実生活に困難をきたす。

- 生まれつきの特徴で、その根本的な病理は変化しない（しかし、適応スタイルは変化する）
- 家庭での養育、あるいは学校など社会環境の問題のために起きるものではない（しかし、環境によって適応は変化する）
- 薬物療法などで医学的に根本的な病理を治療する方法はない（しかし、適応を変化させることはできる）

自閉スペクトラム症(ASD) DSM-5

A. コミュニケーションと対人関係の障害(3項目中3項目)

- 1) 対人的・情緒的相互性の障害
 （行動・会話の一方方向性、興味の共有、共感性など）
- 2) 対人相互的な非言語的コミュニケーション行動の障害
 （視線、仕草、表情などの問題）
- 3) 状況にあった関係作りの障害
 （ごっこ遊び、友達関係、仲間意識の問題）

自閉スペクトラム症(ASD) DSM-5

B. 限局・反復する行動や興味(2項目/4項目)

- 1) 常同的・反復的行為
(エコラリアなどの言語行為も含む)
- 2) 同一性へのこだわり、習慣的・儀式的行動への固執
(変化に対する強い苦痛、思考の柔軟性の欠如など)
- 3) 著しく限局化し、固定した興味、熱中の仕方、対象
- 4) 感覚刺激への反応亢進または低反応
(痛み、温度も含む、光や物の動きに引きつけられるなど)

C. 幼少時より、これらの特徴がみられる
(本人の能力を超えた対人的状況になるまで顕在化しないことがある)

D. 障害全体として日常生活に著しい影響を与えている。

注意欠如/多動症(ADHD) (DSM-5)

- 特徴
 - 不注意、多動(過活動)–衝動性

注意の障害と多動–衝動性が基本的特徴。両者が診断に必要で、複数の状況で両者を明らかにしなければならない

生来的な脳機能障害が発現の主要因である症候群で、発達障害を構成する一疾患

重複

(D)は後で説明

AS(D)	ADH(D)	L(D)	DC(D)
臨機応変な対人関係が苦手	うっかりミスが多い	読むのが苦手	不器用
こだわりが強い	忘れ物が多い	書くのが苦手	
場の空気が読めない	気が散りやすい	(漢字・英単語)	
独特の言葉遣い	+	+	+
人に対して一方的な関わり方	じっと座ってられない	計算が苦手	
興味の範囲が狭い	思いつきで行動する		
融通が利かない	そそっかしい		
自分の関心、やり方、ペースが優先			

マイワールド・マイルール・マイペース

対人関係の苦手、自分のやり方への固執

会社員（大手会社の資材調達）

入社後、新入社員歓迎会に招待されて「僕は飲み会が嫌いなのに何故かないといけないんですか」といい、渋々参加。上司にお酌をするように先輩に言われて「のみたいなら自分でつげばいいじゃないですか」

海外出張もある仕事。ある時、海外で開催された自社製品と競合する資材の展示会に出張を命ぜられた。帰国後、報告書を書くように言われて、展示会で集めた資料を上司に「はい」と渡した。「報告書は？」と尋ねられて、「すべての資料はここにあります。見れば分かります」と述べた。

空気が読めない

会社員

上司が「いつでも相談に来なさい」というので相談に行った。上司は手が離せない仕事があり1時間後にと指示した。1時間後に訪ねると「待たせて悪かったね」といわれ、「大丈夫です。僕は気にしていませんから」といった。

アルバイトの学生

同じ部署で働くようになった年上の社員さんと昼食と取るようになった。たまたま机に置かれた社員さんのスマホにLINEが入った。「LINEが入ってますよ」…その対応をすませた社員さんに「それはギャラクシーですね？なぜiPhoneじゃないんですか？」「それはドコモですね？なぜSBじゃないんですか？」「ちょっと触らせてもらえませんか？」

臨機応変の苦手・他者の意図の読み取りの苦手

パート社員（大手スーパーのバックヤード）

基本的には、バックヤードでお惣菜の盛り付け、野菜類などのパック詰め、売り場への品出しが仕事。アルバイトの人たちが突然休むと仕事が回ってくることに慣れてきた。ある日、レジを依頼されて、数人のお客さんに対応したが、商品交換を依頼された後、「できない」<なんで？>「できない」と言って、泣き出した。（私はそのレジ操作ができない／何故商品交換ができない！）

臨機応変の苦手・他者の意図の読み取りの苦手

60代のご夫婦

長年連れ添った夫婦。今流行の発達障がいではないかと奥さんが連れてきた。「お風呂見てきて」と頼んでも冷たいまま、「玄関見てきて」と頼んでも宅配便の受け取りが出来ない、「隣に回覧板もって行って挨拶しておいて」と頼んでも黙って隣人に渡すだけが。私が話しかけても「野球ばかり見ている」。野球の話しと釣りの話しは熱心にするが、私の話は聴かない。定年だし、子どもも独立したし、夫婦としてやっていけない、熟年離婚でしょうか。

そそっかしい・かたづけられない

ある専門職

基本的には、研究職の仕事には優秀な業績を上げて、認められている。多くの論文を読み、博識で、実験が興に乗ると朝から深夜まで研究室で仕事をしている。しかし、彼の机の上は書籍や論文の写しで積み上がっており、自分のサイフや鍵も毎回机の上、カバンの中を探している。実験器具を壊したり、学会発表の日をまちがっていたりする。報告書や論文などを書くことは苦手で、書いても誤字脱字が多く、また実験結果はきちんとでているのに、論旨が不明確になる。

上司に進捗の報告や連絡がなく、困っていても相談できない。しかし、時に独創的な研究を行い、素晴らしい実験結果を出すこともあって、上司はどうしたものか考え込んでいる。

職人肌

刃物研ぎ職人

家業として長く続いた職人。かつては日本刀の研ぎなども手がけた家だが、需要がなくなり、包丁の研ぎやノコギリの目立てが主となっていた。しかし、それも需要がなくなり、廃業することになった。地所もあって、駐車場やアパート経営でなんとかやりくりしていたが、家でぶらぶらされるものと本人も妻も考えるようになって仕事探しを始めた。

たまたま、親戚が携帯電話の販売店をショッピングモールで始め、雇われた。しかし、そもそも客に話しかけられず、尋ねられても逃げだし、ショッピングモールの音楽や騒音に落ち着かず、いけなくなってしまった。

大学生・社会人では

- 友人関係を求めず、自分の好きなことだけに没頭し、出席してこない
- 入試成績や内申書と大学の成績が勉強努力にもかかわらず乖離している
- 反論されると、過度に落ち込んだり、興奮して怒鳴る
- 初対面なのになれなれしかったり、過度に丁寧で形式的に話す
- 何度説明しても、自分の都合のよい理解の仕方しかできない
- いつ会っても同じような話題をまるで初めて話すかのように繰り返す
- その場の雰囲気や理解できない（空気が読めない）
- 怠けているわけではないのに、レポートの期日や約束がいつも守れない
- 整理整頓ができず、忘れ物がきわめて多く、ノートがとれない
- 授業は熱心に聞いているが、レポートは纏まりなく冗長で主旨が不明
- バイトでクビになることが多い
- 履修登録のシステムを十分理解していない
- 配慮のない、杓子定規な対応をするため、実習先からクレームが来る

差し障りがなければ診断できない・しない

AS(D),ADH(D),L(D),DC(D)

- 何故、括弧付きのD? D=disorder
- AS、ADHなどを特性としてもつ人は多い
 - 研究者、職人、公務員、教師、司法関係者、医師、政治家…?
 - 人の認知特性はさまざま
 - 視覚優位、聴覚優位
 - 全体優位、局所優位
 - 色彩優位、線優位
 - 立体優位、平面優位、三次元認知、四次元認知
 - 相貌記憶、相貌失認
 - …
- 生活上（職業、学業、対人など）の差し障りがあって、はじめてDと診断される

①さわり、さまたげ、じゃま。
「を乗りこえる」
②身体器官に何らかのさわりがあつて機能を果たさないこと。
「言語」
③障害競走・障害物競走の略。
[広辞苑第六版]

医学的診断基準の問題点

(Attwood,2007)

- 障害や問題点、不得手なところだけを取り上げるべきではない。
- 特異なところ、高い能力にも注目すべき。
 - 特別な興味の対象、得意科目に関しての賞や資格など
 - 優れた才能、特技（例）写真のような細密画、視覚的記憶）
 - 性格（優しい、正義感、遵法精神）

(門真一郎 訳)

ASD/ADHDをもつ人たちの振り返りと 二次障害

手記(1)

- 親や教師の言葉、規則には従順に従う、まじめで大人しい子どもでもした。遊びの輪の中に自分から入っていけなかった。
- 教室では、空想に耽ったり、寄り目をして風景が奇妙に歪んだりするのを楽しんだり、家では蟻を何時間も眺めたりしていました。
- 読書をしていれば幸せでした。
- 忘れ物が多く、整理ができなかった。
- 友達はいたけれど、駆け引きが分からなかった。
- わざとルールを無視して、皆の笑いをとっていたけれど、繰り返して白けさせた。
- 友達が話す、アイドルや制服の話が何故楽しいか分からず、いつの間にか嫌われていてショックだった。

ADHD・高機能自閉症の子どもたちへの適切な対応—成人当事者たちからの提言集—
(国立特殊教育総合研究所,2004)

手記(2)

- からかいが冗談と分からず本気で怒っていた。
- 自分の机の木目模様や教室のインクのシミがどこに付いているかは憶えてしまうのに、級友とは親しくなれなかった。
- 「いつも一人でいる」「自分勝手に無神経」「非常識」とクラスでつるし上げにあった。「ちゃんとやります」と言ったけど、どう「ちゃんと」やればよいのか分からなかった。
- 「好きなもの同士でグループを作れ」といわれ、私はどこにも入れてもらえなかった。
- 全校集会の集合の仕方が分からなかった。同級生の行動をみてついて行った。
- 大声、怒鳴り声、大きな音、騒音に敏感でパニックになって動けなくなりました。
- 遠足などのバスの中の匂い、自分の汗で気持ち悪くなった

ADHD・高機能自閉症の子どもたちへの適切な対応—成人当事者たちからの提言集—
(国立特殊教育総合研究所,2004)

手記

感覚・知覚過敏 人に近寄られるのは好きではなかった。さわられるなど論外で、触られるとどんな触られ方であれ痛いし、とても恐かった。(Williams, 1992)

幼児期の耳は調整の効かないマイクロフォンのようだった・・・(Grandin,1995)

こころの理論課題 人の目を見ると話しがわからなくなってしまふ。自分は45歳を過ぎて目がものを言うことを学んだ。(Grandin, 1998)

同一刺激、繰り返し刺激への没頭 まわり中が一定のリズムで動いていると幸福感がある(Williams, 1992) 砂の一粒一粒が見飽きず面白い(Grandin,1995)

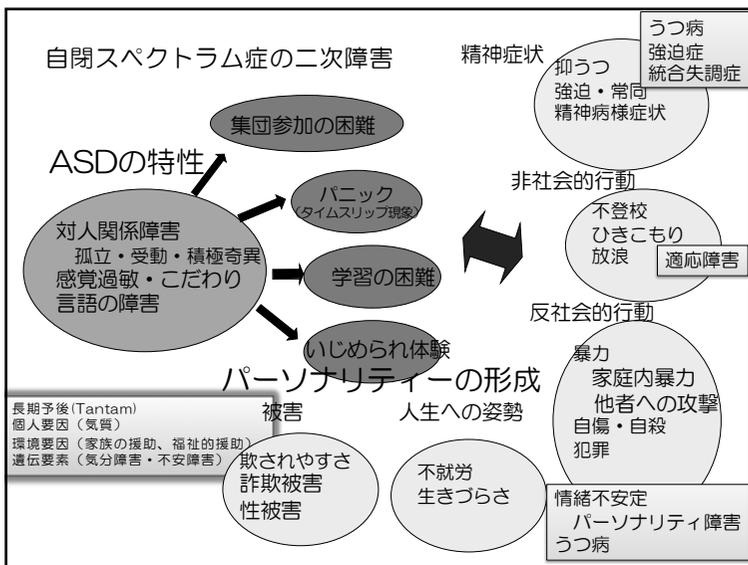
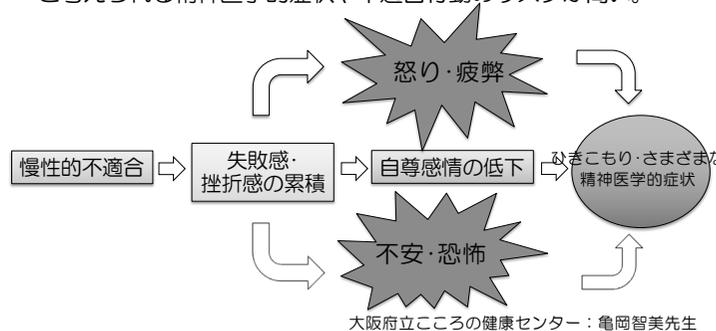
自分は全て一度に一つのことしか出来ないの、自分の語ったことすら自分に向かってもう一度言い直さなくては理解が出来ない。(Williams, 2001)

いじめられ

- ASD/ADHDの人は「いじめ」られやすい。からかい、いじめられ…
- ASDの人は、人の気持ちが分からない、空気を読めない(と思われている)
 - 実際には、他者の気持ちや心のあり方を推測して(知的に)把握出来るようになる。
- 一所懸命、読もうとするので、とても敏感になっている。
- いじめられ体験から被害的、迫害的対人関係をもちやすい。
- 不快場面のフラッシュバックの頻発を招く

発達障がいの人たちのリスク

基本特性そのものではなく、不適切な対応や環境との不適合により二次的に派生すると考えられる精神医学的の症状や不適合行動のリスクが高い。



社会適応性と「育てられ方」

本田秀夫：あなたの隣の発達障害

- 特性特異的教育タイプ
 - 特性に応じて必要な課題を適切に与えられた
 - 感情が安定し、真面目で信頼の置ける性格
- 放任タイプ
 - 特性理解が全く得られなかった環境(叱る、教えられない)
 - 人への不信任、猜疑心、感情コントロール困難
- 過剰訓練タイプ
 - 苦手なことを克服させようとしすぎる(過大な課題)
 - 自己肯定感が低く、将来に対する意欲が乏しい
- 自主性過尊重タイプ
 - 得意なことだけを伸ばすことを重視した育児、教育
 - 傲慢な人、つまづくことと自己肯定感が低く、将来に対する意欲が乏しくなる
- 必要なことは自律スキルとソーシャルスキル
 - ソーシャルスキル=相談できる力(親・家→親・家以外)
 - 社会のルールを守ること

環境が適応をかえる～特性をこえて～

そのものだけが有する、他と異なった特別の性質、特徴、性格特性。「一を発揮する」[広辞苑第六版]

特性と障害

①さわり。さまたげ。じゃま。「一を乗りこえる」
②身体器官に何らかのさわりがあつて機能を果たさないこと。「言語一」
③障害競走・障害物競走の略。[広辞苑第六版]

・特性とは？
もって生まれたその人の特徴

→ その「特性」自体は変えられない。

・障害とは？
日常生活や社会生活において、その人だけでは対処できない不利益となる問題が生じている状態であり、その人が困っていたり、周囲の人が困っている状況

→ 「障害」は固定的なものではなく、生活上の工夫や支援（社会）のあり方によって変化する。

Renaïs Hanakita
姫路市発達医療センター花北診療所 北山真次先生より

特性と障害を分けて考える

例えば難聴の場合

特性	聞こえにくい
障害	コミュニケーションが上手くない
2次障害	学力低下。無気力

Renaïs Hanakita
姫路市発達医療センター花北診療所 北山真次先生より

みんなが手話で話した島

ノーラ・エレン・グロース著 築地書館

「マーサス・ヴィンヤード島は、マサチューセッツ州南東部の大西洋岸から8キロほど沖合に浮かぶ島である。1640年代に開拓者が移住した。農業、漁業を主産業とする、生活水準のさほど高くない土地だった。だがこの隔離された島には、よそでは見られない特徴があった。

島では300年以上にわたり、先天性のろう者の数が飛び抜けて高い比率を示した。これは遺伝性の聴覚障害が原因だった。アメリカにやってきたイギリスの初期開拓者のもたらした遺伝子が、結婚を通じて子々孫々に伝えていったのである。

それではヴィンヤード島に限って見られた特徴とは何かといえば、それはこうした遺伝の発生に対して、社会的に適応してみせたことである。ヴィンヤード島では、300年以上にわたり、健聴者が島の手話を覚え、実生活の場でそれを用いていた。島の健聴者の多くは、ちょうどメキシコの国境沿いでくらす今日のアメリカの子供が英語とスペイン語を覚えてしまうのと同じように、英語と手話という二言語を完全に併用しながら大人になっていった。

ろう者の社会生活や職業生活を制限しているのは、聞こえないという障害ではなく、まわりの健聴世界との間に立ち足はだかる言葉の壁なのだ——ろう者がしばしばこう発言しているのを考えると、ヴィンヤード島で見られた状況には大きな意義があるといえよう。そのような壁が取り除かれたとき、どのような状況が生じるのだろうか。ろう者は、そしてまたほかの障害者は、社会が万人に適応しようとした

マーサズ・ヴィンヤード島

ボストン Boston

ニューヨーク

マーサズ・ヴィニヤード・サインランゲージ (Martha's Vineyard Sign Language) と呼ばれる特殊な手話が発達した

特性と障害を分けて考える

マイペース・マイワールドの問題の場合

特性

マイペース・マイワールド

家庭、保育・学校、職場 => かかりつけ医

障害

周りに合わせられない。他者とのトラブルが絶えない

保育・教育機関、訓練機関、小児科・児童精神科医・精神科

2次障害

疎外、抑うつ、精神症状、不登校。家庭内暴力

相談機関、発達専門医、児童精神科医

Who?

- 5歳まで、会話できなかった(片言)
- 言語理解はよかったが、言語表出は苦手
- 読字障害
- 書字障害アルファベットの「R」の鏡文字(生涯)
- 人付き合いが苦手だった
- おとなしく、生真面目
- 靴下は嫌い、常に靴を素足のまま履いた
- 数学が得意
 - 9歳でピタゴラスの定理を知って、自力で証明
 - 12歳で幾何学の本をもらって独習、微積分学を独自で修得
 - 13歳で高等数学をマスター
- 国語が苦手で、大学受験失敗
- DV (家庭内暴力) が原因で離婚

Albert Einstein

$E=mc^2$

1921年
 ノーベル物理学賞
 特殊相対性理論
 一般相対性理論
 光量子仮説
 揺動散逸定理…

「私は天才ではない。ただ人よりも長く一つのことと付き合っただけだ」

Who?

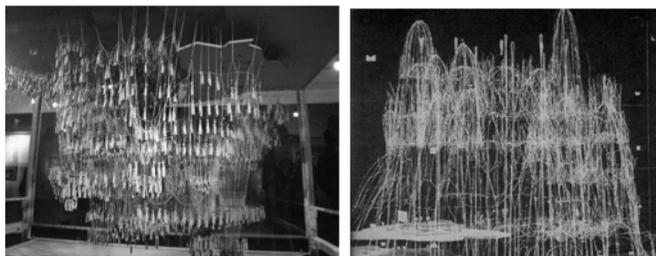
- 病弱だったため、他の子どもたちと同じように遊ぶことは難しかった
- 紙細工で風変わりな家を作っていた
- 授業で鳥の翼は飛ぶためにあると説明した教師に対し、鶏は翼を走るために使っている、と反論した
- 専門学校の校長「彼が狂人なのか天才なのかはわからない、時が明らかにするだろう」
- 女性恐怖症、一生独身であった
- 繊維会社を経営する富豪に才能を見染められ開花

アントニ・ガウディ



眼鏡を家に忘れた。彼は段差に躓き転倒、そこに通った路面電車で轢かれた。身なりに気をつかわず、浮浪者とまちがわれ手当が遅れて、3日後に亡くなった。

- 「美しい形は構造的に安定している。構造は自然から学ばなければならない」
- 重力で下に引張られる力を180度逆にして、上向きの支える力と見なす



発達障害とされる有名人

- | | |
|-----------------|---------------|
| • スティーブ・ジョブズ | • アイザック・ニュートン |
| • ビル・ゲイツ | • ゴッホ |
| • さかなクン | • バートランド・ラッセル |
| • トーマス・エジソン | • バルトーク |
| • スティーブン・スピルバーグ | • ヴィトゲンシュタイン |
| • スーザン・ボイル | • アンディー・ウォーホル |
| • ジミー大西 | • グレングールド |
| • モーツァルト | |

発達の偏り＝才能 ≠ 障害

障害と才能は表裏

- 空気が読めない
- こだわり
- 融通が利かない
- 予定変更が苦手
- 感覚過敏
- 聴覚過敏
- 多動
- 衝動的
- 不注意
- 周りに左右されない
- 少数の友達を大事にする
- 熱心、首尾一貫、集中
- こつこつ努力できる
- 計画的
- 感覚が鋭敏
- 絶対音感
- 活動的
- 行動的・マルチタスク
- 失敗にめげない

本人が心得ておくこと

- 特性にあった生活が一番よい：もし仕事などを行っているのなら、休日には必ず自分の好きなことを取り入れる。好きなことが出来る時間や場所が確保されてた上での仕事。
- 特性は個性である：特性は変えられない、周りを変えることは力がある。どうしても周りに変わってほしいという場合には、手帳などを持った方が手取り早い。
- 逃げてよい：無理に周りに合わせない。他の不調が出てきた時に、なかなか取り返せない。逃げるが勝ちのことも多い。
- 自律スキルを身につける：自分が出来ることは自分でやり、苦手なことは無理をしない。
- ソーシャルスキルを身につける：上手に人づきあいすることではない。自分の困難や、自分にあった進路を選択するための相談できる場所、人を手に入れる。
- 自分の中の才能を発見し開発する

周りが考えておくこと

- 特性はその人の個性である：特性をもつ人の困難を理解し、困難を受け入れ、受け入れられる環境・社会の育成に貢献するという意識が必要。
- 診断名がなくても特性の理解を：診断がなければ、自己責任論や切り捨てになりやすいが、診断が作り出す差別もある。
- 診断が(つか)なくても、本人の困り感、困り事に沿って配慮する。
- 家族との連携：できることとできないことを明示する。家族も援助者の一部である。(親子関係から離れて)
- 相談機関：自分の困難を理解、受容し、自分に合った進路を選択するための相談、相談機関と巡りあう。

参考文献

本田秀夫：発達障害-行きづらさを抱える少数派の「種族」たち SB文庫
 本田秀夫：あなたの隣の発達障害 小学館
 岩波明：天才と発達障害 文春文庫
 イアン・ジェイムス：アスペルガーの偉人たち スペクトラム出版
 岡南：天才と発達障害 講談社